

『つなぐ』を意識した上中の取り組み紹介

上磯中学校では、生徒と先生方が共通のキーワードを意識した取り組みを行っています。また、新型コロナウイルスの影響が収まらない中で、学校での生活様式も変化を余儀なくされています。このような中でも、生徒の学びを止めない工夫をし、大きな行事である体育大会の実施ができました。

共通実践 ☆ATM☆

朝7時45分、生徒玄関が解錠されると「おはようございます」と元気な声でありさつをし、次々と生徒が登校して来ます。530人もの生徒が玄関で先生方の検温チェックを受け、学校生活をスタートさせています。

上磯中学校では、職員、生徒ともに共通した合い言葉を意識した取り組みの実践を行っています。それは、あいさつのA、時間のT、そして身だしなみのMの頭文字を合わせた「ATM」です。

先生方や来客の方々にあいさつをする場合は、生徒は一度立ち止まりあいさつをします。授業の始まりと終わりには大きな声でそろってあいさつをします。

また、生徒、先生が互いに声をかけ合いながら3分前行動を意識しています。さらに、時間を守るだけではなく、気持ちの切り替えをするということも、このTの中に含まれています。

身だしなみが乱れるということは、心の乱れとなります。どれもできて当たり前のことではあります。学校生活の中でみんなが合い言葉として伝え合い、意識していくこと、そして先輩が後輩にそ

の思いをつないでいくことを目的として行っている取り組みです。



朝、生徒たちが玄関指導の先生に元気にあいさつをし、検温している様子

共通実践 ☆なにやるタイム☆

「なにやるタイム」とは、学校と家庭との学習をつなげるために必要となる学習内容や学習方法を自ら考え、主体的に家庭学習に取り組む姿勢や習慣を身に付けさせることを目的とした取り組みです。全校で取り組むことで、学習に向かう一体感をつくり、個へとつなげていくこともねらいとしています。

帰りの短学活終了後、5分間の取り組みですが、一人一人なにをやるかはさま

ざまです。副担任の先生方も各教室を回り、生徒の学びのサポートやアドバイスを行っています。

何をするかを考え、実践する。そして振り返り、うまくいかない場合は修正し、また実践するというサイクルを繰り返しているながら自己調整をしていく力は、これからつながる大切な力です。



「なにやるタイム」で先生が生徒にアドバイスをしている様子

体育大会 ☆学びを止めない工夫☆

コロナ禍、緊急事態宣言の中ではありましたが、感染症対策をした上で、5月24日、今までの形式にこだわることなく体育大会を開催することができました。

体育大会のテーマは「勝利の方程式」努力・団結・笑顔」です。優勝するためには何度も練習を繰り返しながら団結し、目標に向かって取り組むことが大切、そしてみんなで笑顔で体育大会を終え、絆を深めるといふ願いを込めて3年生の山田美月さんが考えたものでした。3年生にとってはこれが最後の体育大会です。縮小の形ではありましたが、最上級生として最高のパフォーマンスが

できるよう、クラスが団結し、取り組んでいた姿がありました。本番は3年生だけではなく、1、2年生も緊張と気合いが入り混じった様子でしたが、どのクラスも懸命に頑張っていました。

テーマの願いにもあるように、体育大会は、競うだけではなく、クラスの団結、物事への取り組み姿勢、そしてクラスや学年を越えて、頑張っている仲間への応援や励まし、ねぎらいなど、大切なことを学べる場でもあります。運営する側も試行錯誤しながらの計画実施でしたが、取り組む中で気づいたことを、声をかけ合いながら調整し、チームとして協力し合いながら一つの大きな行事を無事に終えることができました。



感染症対策として6人1組の少人数にわかれ、合計の回数を競う形で実施した長縄跳び

なんとなく、ただやらされているからではなく、生徒一人一人が、何のために行うのか、なぜ必要であるのかという目的を理解することで、主体的に考え行動していくことへとつながります。それは今、まさに求められている資質ではないでしょうか。私たち教職員も、生徒の主体性を引き出す工夫とサポートをチーム上中として今後も継続していきます。

(上磯中学校 教諭 會津 聡子)